

第2章 北海道の水資源の現況

1 北海道の概要

北海道は日本列島の最北に位置し、四方を太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、梅雨や台風の影響をあまり受けず、年平均気温は札幌で9.2℃（東京は15.8℃）と冷涼低温な気候です。

人口は約518万人、総面積は8万3,424km²で国土の約22%を占め、山地と平地の割合はほぼ半々、全国と比較すると山地や傾斜地が少なく、なだらかな土地が多いのが特徴です。

中央部を北から南へ、天塩山地、北見山地、石狩山地（大雪山国立公園を含む一帯の山地）、日高山脈が走り、石狩平野をはじめ、十勝平野、天塩平野、名寄盆地、上川盆地、富良野盆地などの平地が広がっています。釧路湿原やサロベツ原野など、日本を代表する湿原や美しい湖沼にも恵まれています。

- (注) 1. 平均気温は気象庁が発表している1991～2020年の平均値
2. 人口は令和4年1月1日現在の住民基本台帳による。
3. 総面積は国土地理院が発表している令和4年4月1日現在のもの。

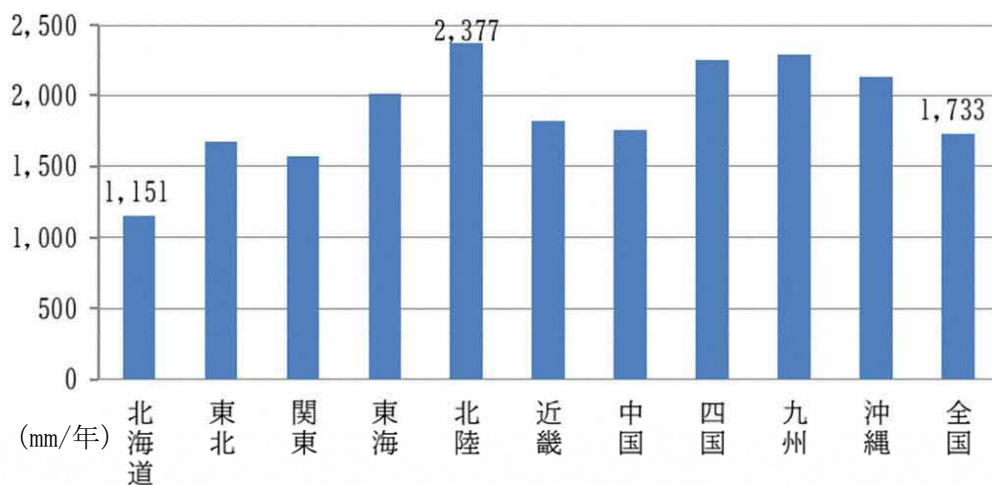
[図2-1-1]



2 降水量

北海道の年平均降水量は1,151 mm/年で、全国の年平均降水量1,733 mm/年の3分の2程度です。また、北海道は地形や位置、海流、季節風などにより地域によって気候の違いがあり、平成24年(2012年)からの10年間の年平均降水量を見ても、岩見沢市では約1,342 mm/年、網走市では約914 mm/年と、地域差があります。

◆平均年降水量 [図2-2-1]

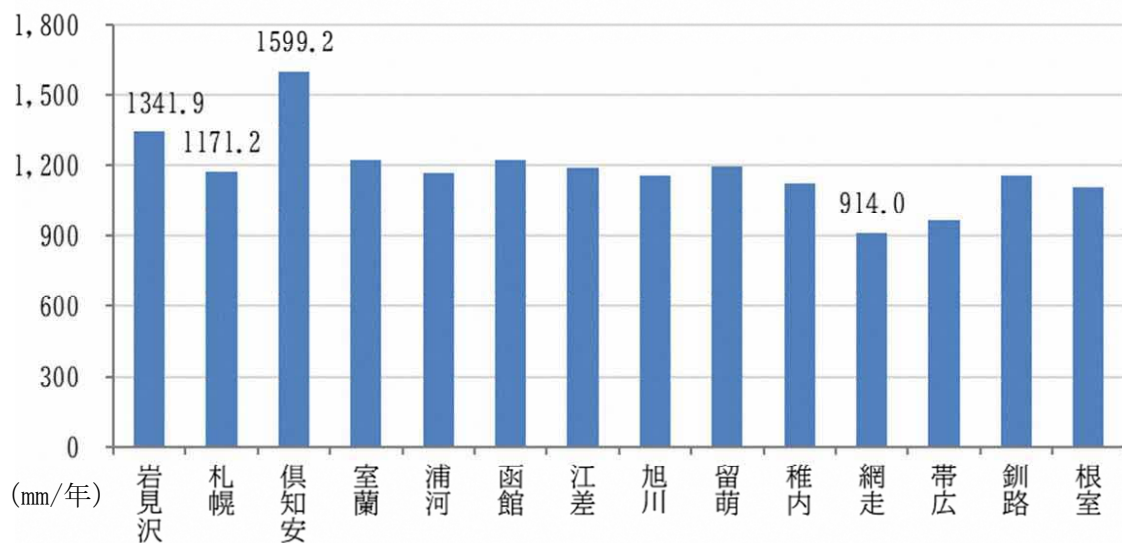


(注) 平均降水量は1992～2021年の平均値で、国土交通省水資源部調べ

出典：国土交通省水資源部「令和4年版 日本の水資源の現況」から

◆道内各地の最近10年間の年平均降水量(平成24年(2012年)～令和3年(2021年))

[図2-2-2]



気象庁資料から

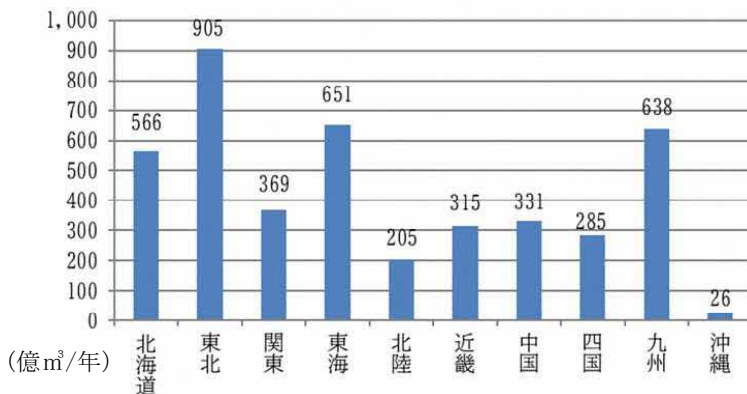
3 水資源賦存量

北海道は国土面積の約 22%を占めているものの、全国と比べて降水量が少ないことなどから、日本の水資源賦存量に占める割合は約 13% (566 億 m^3 /年) となっています。

一方、道民 1 人当たりの水資源賦存量は、全国と比べて人口密度が低いことから、10,286 m^3 /人・年と、全国平均 3,351 m^3 /人・年の約 3 倍の量となっています。この量は世界の平均 (7,101 m^3 /人・年) を上回っています。

また、全国的に見るとここ 20~30 年間は、少雨の年と多雨の年の年降水量の開きが次第に大きくなっています。北海道では、平均年の水資源賦存量に対する渇水年の水資源賦存量の割合は約 73%と全国とほぼ同じ割合となっています。

◆日本の水資源賦存量 (平均年：全国 4,291 億 m^3 /年) [図 2-3-1]



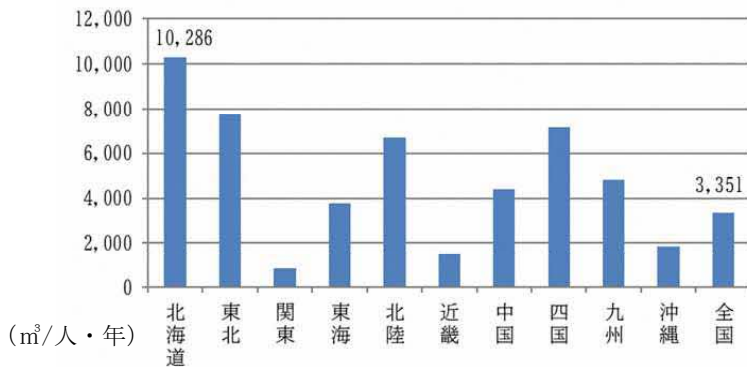
(注)

1. 水資源賦存量は、降水量から蒸発散によって失われる水量を引いたものに面積を乗じた値で、平均年の水資源賦存量は 1992~2021 年の平均値。国土交通省水資源部調べ。

出典：国土交通省水資源部

「令和 4 年版 日本の水資源の現況」から

◆一人当たりの水資源賦存量 (平均年：全国 3,351 m^3 /人・年) [図 2-3-2]



出典：国土交通省水資源部

「令和 4 年版 日本の水資源の現況」から

◆渇水年・平均年水資源賦存量 [表 2-3-1]

区分	渇水年水資源賦存量	平均年水資源賦存量
北海道	411 (73%)	566 (100%)
全国計	3,338 (78%)	4,291 (100%)

(注)

1. 平均年の水資源賦存量は 1992~2021 年の平均値で、国土交通省水資源部調べ
2. 渇水年とは 1992~2021 年において降水量が少ない方から数えて 3 番目の年

出典：国土交通省水資源部

「令和 4 年版 日本の水資源の現況」から